

(様式第 10)

岩医大病企第 185 号
令和元年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

学校法人岩手医科大学
理事長 小川 章

岩手医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通一丁目 1 番 1 号
氏 名	学校法人岩手医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

岩手医科大学附属病院

3 所在の場所

〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目 1 番 1 号	電話 (019) 613-7111
--------------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 ①呼吸器内科 ②消化器内科 ③循環器内科 ④腎臓内科 ⑤神経内科 6血液内科 ⑦内分泌内科 8代謝内科 9感染症内科 ⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科 ⑪リウマチ科	
診療実績 ・血液内科 : 血液・腫瘍内科 ・代謝内科 : 糖尿病・代謝内科 ・感染症内科 : 呼吸器内科	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	㊦ ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績 ・ 内分泌外科：外科	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	㊦ ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1リハビリテーション科 2児童精神科 3臨床検査科 4病理診断科 5肝臓内科 6心療内科 7老年内科 8緩和ケア内科 9肝臓外科 10気管食道外科 11形成外科 12頭頸部外科 13美容外科 14

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
68床	床	床	床	932床	1,000床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

医 師	276人	410人	431.6人	看護補助者	115人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	154人	62.4人	理学療法士	9人	臨床検査技師	83人
薬剤師	71人	0人	71人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	1人	その他	0人
助産師	47人	0人	47人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1,252人	0人	1,252人	臨床工学士	30人	医療社会事業従事者	11人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	11人	その他の技術員	82人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯科技工士	0人	事務職員	153人
管理栄養士	17人	0人	17人	診療放射線技師	63人	その他の職員	0人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	38人	眼科専門医	17人
外科専門医	43人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	8人	放射線科専門医	18人
小児科専門医	26人	脳神経外科専門医	18人
皮膚科専門医	13人	整形外科専門医	21人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	12人
産婦人科専門医	23人	救急科専門医	18人
		合計	273人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (小笠原 邦昭) 任命年月日 平成30年4月1日

医療安全関係の学内委員会への出席状況 (2018年度出席回数)

- ・医療安全推進委員会 2018年4月から 3回 (全8回)
- ・総合医療安全対策会議 2018年1月から 8回 (全8回)
- ・監査委員会(医療安全) 2018年4月から 1回 (全1回)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	869.1人	13.0人	882.1人
1日当たり平均外来患者数	1562.1人	405.8人	1967.9人
1日当たり平均調剤数			1331.1剤
必要医師数			179.1925人
必要歯科医師数			22人
必要薬剤師数			27人
必要(准)看護師数			476人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,261.4m ²	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	病床数	24床	心電計	④・無
			人工呼吸装置	④・無	心細動除去装置	④・無
			その他の救急蘇生装置	④・無	ペースメーカー	④・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 564.2 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	45床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 147.2 m ² [共用室の場合] 共用する室名 薬務室					
化学検査室	402.6 m ²	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備) 生化学自動分析装置 全自動尿分析装置 総合血液学検査・自動塗抹標本作成装置 免疫発光測定装置 免疫統合自動分析装置 他			
細菌検査室	183.3 m ²	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備) 質量分析計、薬剤感受性試験装置 血液培養自動分析装置 全自動抗酸菌培養検査装置 他			
病理検査室	247.8 m ²	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備) 凍結組織切片作成装置 ホルマリン対策臓器撮影装置 自動ガラス封入・染色装置 シム生物顕微鏡 他			
病理解剖室	50.0 m ²	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備) 感染防止対策用解剖台 ラミナーフローユニット プッシュプル型切り出し台 ホルマリン固定液作成装置 他			

研 究 室	15,148.3 m ²	鉄筋コン クリート	主な設備) 研究用機器 他	
講 義 室	4,305.8 m ²	鉄筋コン クリート	室数 21 室	4,305.8 m ²
図 書 室	1,229 m ²	鉄筋コン クリート	室数 4 室	1,229 m ²

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	76.2 %	逆紹介率	89.5%
算出根拠	A：紹介患者の数			19,284人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			24,707人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			1,768人
	D：初診の患者の数			27,619人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三木 保	東京医科大学 医学部 医療 の質・安全管理 分野 主任教 授	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/>	1
渡辺 正和	渡辺正和法律 事務所 代表		法律に関する識 見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/>	1
古内 保之	元社会福祉法 人岩手県社会 福祉協議会 専務理事兼事 務局長		医療を受ける者 その他医療従事 者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/>	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無
公表の方法 附属病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
実績なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る)の併用療法	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	1人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法	0人
テモゾロミド用量強化療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	対象なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	80
2	筋萎縮性側索硬化症	44	57	特発性拡張型心筋症	58
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	4
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	15	60	再生不良性貧血	33
6	パーキンソン病	264	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	4	63	特発性血小板減少性紫斑病	46
9	神経有棘赤血球症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリエー・トウス病	3	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	100	66	IgA腎症	19
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	27
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	135	68	黄色靱帯骨化症	11
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	28	69	後縦靱帯骨化症	57
15	封入体筋炎	7	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	22
17	多系統萎縮症	19	72	下垂体性ADH分泌異常症	3
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	46	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	8
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	10	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	86	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	15
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	22
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	78
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	19
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	12
32	自己食食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	9
34	神経線維腫症	22	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	23	90	網膜色素変性症	20
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	6
37	膿疱性乾癬(汎発型)	18	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	76
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	6
40	高安動脈炎	12	95	自己免疫性肝炎	30
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	176
42	結節性多発動脈炎	9	97	潰瘍性大腸炎	237
43	顕微鏡的多発血管炎	11	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	4	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	219	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	52	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	77	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	32	107	全身型若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	8	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	8	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	14	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ベリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	1
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	1
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無 β リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	6	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	20	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	5
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	3
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	2
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	5

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	1

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・糖尿病合併症管理料	・がん性疼痛緩和指導管理料
・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ	・外来緩和ケア管理料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後の場合)	・移植後患者指導管理料(臓器移植後の場合)
・糖尿病透析予防指導管理料	・外来放射線照射診療料
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・がん治療連携計画策定料
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・薬剤管理指導料
・医療機器安全管理料1	・医療機器安全管理料2
・医療機器安全管理料(歯科)	・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び 歯科治療時医療管理料
・在宅患者訪問看護・指導料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・持続血糖測定器加算・皮下連続式グルコース測定	・遺伝学的検査
・骨髄微小残存病変量測定	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・HPV核酸検出、HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・遺伝カウンセリング加算	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・胎児心エコー法	・時間内歩行試験、シャトルウォーキングテスト
・ヘッドアップティルト試験	・人工臓器療法、人工臓器検査
・長期継続頭蓋内脳波検査	・神経学的検査
・補聴器適合検査	・ロービジョン検査判断料
・小児食物アレルギー負荷検査	・内服・点滴誘発試験
・CT透視下気管支鏡検査加算	・精密触覚機能検査
・画像診断管理加算3	・画像診断管理加算(歯科)
・遠隔画像診断(医科・歯科)	・ポジトロン断層撮影
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・CT撮影及びMRI撮影
・冠動脈CT撮影加算	・外傷全身CT加算
・心臓MRI撮影加算	・頭部MRI撮影加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・外来化学療法加算1
・無菌製剤処理料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)

・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ))	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・がん患者リハビリテーション料
・リンパ浮腫複合的治療料	・救急患者精神科継続支援料
・認知療法・認知行動療法1	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・医療保護入院等診療料	・精神科ショートケア「小規模なもの」
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・CAD/CAM冠	・センチネルリンパ節加算
・皮膚移植術(死体)	・組織拡張器による再建術(乳房(再建手術)の場合に限る)
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養骨移植術に限る)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・羊膜移植術	・緑内障手術(インプラント挿入術(プレートのあるもの)
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・人工中耳植込術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術・交換術	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下良性縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・胸腔鏡下弁形成術	・経カテーテル大動脈弁置換術
・胸腔鏡下弁置換術	・経皮的僧帽弁クリップ術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・体外衝撃波胆石破砕術	・腹腔鏡下肝切除術
・生体部分肝移植術	・同種死体肝移植術
・体外衝撃波膀胱石破砕術	・腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術

・腹腔鏡下睪頭十二指腸切除術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡支援機器を用いる場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・同種死体腎移植術
・生体腎移植術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・輸血管理料Ⅱ	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・自己生体組織接着剤作成術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置
・麻酔管理料(Ⅰ)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・放射線治療専任加算	・外来放射線治療加算
・高エネルギー放射線治療	・1回線量増加加算(全乳房照射、前立腺照射)
・強度変調放射線治療(IMRT)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・体外照射呼吸性移動対策加算	・定位放射線治療
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・保険医療機関間の連携による病理診断
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速細胞診
・病理診断管理加算2	・デジタル病理画像による病理診断
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術	・
・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	・
・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月10回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 33例／剖検率8.1%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
モガムリズマブの免疫関連有害事象;制御性T細胞除去がヒト免疫機構に及ぼす影響解明	石田 高司	内科学講座血液腫瘍内科分野	2,600,000	補委 文部科学省
肺癌/中皮腫に於けるPITX2を介したYAP経路によるレドックス制御の解明	重枝 弥	呼吸器外科学講座	1,300,000	補委 文部科学省
歯の先天欠如の原因となる遺伝子変異の探索とその分子メカニズムの解明	村上 暁子	口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	1,170,000	補委 文部科学省
3Dイメージングによる新たな解剖学的膝靭帯再建術の開発	田島 吾郎	整形外科学講座	910,000	補委 文部科学省
東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究	八木 淳子	神経精神科学講座	1,170,000	補委 文部科学省
大腸癌肝転移におけるがん微小環境の解明と組織評価への応用に関する研究	石田 和之	病理診断学講座	1,300,000	補委 文部科学省
マクロファージ表面マーカーを指標とした間質性肺炎の新規診断法の開発と病態機序解明	山下 雅大	内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	520,000	補委 文部科学省
アトピー性皮膚炎の痒みにおける神経・内分泌・免疫のクロストーク	天野 博雄	皮膚科学講座	1,430,000	補委 文部科学省
悉皆調査による脳卒中登録整備と東日本大震災後の中長期的脳卒中罹患状況に関する研究	大間々 真一	岩手県高度救命救急センター	1,560,000	補委 文部科学省
支援者への遺伝教育を盛り込んだ難聴児支援システムの構築	小林 有美子	耳鼻咽喉科学講座	780,000	補委 文部科学省
剖検事例におけるリチウム中毒の評価と簡易リチウム分析法の検討	藤田 友嗣	救急・災害・総合医学講座救急医学分野	910,000	補委 文部科学省
肝再生不全克服に向けた機能肝細胞増殖機構に関する研究	滝川 康裕	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,040,000	補委 文部科学省
超音波画像のテクスチャ解析とエラストグラフィによるNASHの非侵襲的診断法の開発	黒田 英克	内科学講座消化器内科肝臓分野	650,000	補委 文部科学省
7TeslaMRIによる神経Behcet病早期脳微小血管病変の検出	佐々木 信人	内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	1,040,000	補委 文部科学省
磁場誘導加熱による癌の低侵襲的温熱療法に関する研究	齊藤 元	呼吸器外科学講座	1,040,000	補委 文部科学省
超高磁場MRIによる数値流体解析とプラーク画像を用いた頸動脈術中血栓発生解明	小林 正和	脳神経外科学講座	1,300,000	補委 文部科学省

小計16件

Velocity Vector Imagingを用いた胎児異常における心機能解析	菊池 昭彦	産婦人科学講座	1,690,000	補 委	文部科学省
卵巣明細胞癌に対するKANK1を標的とした新規治療法の開発	板持 広明	産婦人科学講座	1,560,000	補 委	文部科学省
抗酸化剤・抗ストレス剤を用いた白内障の抑制	橋爪 公平	眼科学講座	1,820,000	補 委	文部科学省
早期骨形成を促す超親水性骨移植材の開発	鬼原 英道	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	1,430,000	補 委	文部科学省
脊椎器械固定術後の血液マーカーによる簡易骨癒合診断システムの開発	村上 秀樹	整形外科科学講座	1,950,000	補 委	文部科学省
褐色脂肪細胞を活性化させる分子メカニズムの解明	長谷川 豊	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	2,080,000	補 委	文部科学省
発生部位による microsatellite stable型大腸癌の分子解析	菅井 有	病理診断学講座	1,430,000	補 委	文部科学省
腺管分離法を用いたSNP arrayによる胆道癌のゲノムコピー数解析	塩井 義裕	外科学講座	260,000	補 委	文部科学省
腸症関連T細胞リンパ腫の病態に関する臨床および分子病理学的研究	中村 昌太郎	内科学講座消化器内科消化管分野	715,000	補 委	文部科学省
放射線治療用小型皮膚線量計の開発	山口 哲	放射線医学講座	910,000	補 委	文部科学省
自己血採血後遅発性副作用のリスク解析と予防のための看護方法の開発	鈴木 啓二郎	臨床検査医学講座	780,000	補 委	文部科学省
東日本大震災被災地域住民における心電図指標と循環器疾患発症危険に関する研究	田中 文隆	内科学講座腎・高血圧内科分野	910,000	補 委	文部科学省
幼少期トラウマ体験と遺伝子相互作用が神経ネットワークに与える影響	福本 健太郎	神経精神科学講座	1,950,000	補 委	文部科学省
ナノ粒子を用いた、癌原発巣-転移巣CT検出と、放射線遠達効果による転移巣の治療法	原田 聡	放射線医学講座	780,000	補 委	文部科学省
血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発	岩谷 岳	外科学講座	1,430,000	補 委	文部科学省
大腸癌の予後に関連するnon-coding RNA FTXに関する検討	秋山 有史	外科学講座	1,560,000	補 委	文部科学省
Muse細胞を用いた大量肝切除後補助療法へ向けた基盤構築	片桐 弘勝	外科学講座	1,300,000	補 委	文部科学省
大量肝切除後の幹細胞補充療法	高原 武志	外科学講座	1,040,000	補 委	文部科学省

空間認識が人工内耳装用者の平衡機能に及ぼす影響の解明	平海 晴一	耳鼻咽喉科学講座	1,950,000	補 委	文部科学省
TGF- β による水晶体上皮細胞の上皮間葉系移行におけるMRTFの役割	黒坂 大次郎	眼科学講座	1,820,000	補 委	文部科学省
一酸化炭素中毒における連鎖的大脳白質障害の病態解明と最適予測因子の検索	別府 高明	脳神経外科学講座	1,040,000	補 委	文部科学省
胃乳頭状腺癌における臨床病理学的および分子病理学的解析	上杉 憲幸	病理診断学講座	1,950,000	補 委	文部科学省
超高精細CTによるAdamkiewicz動脈とその側副血行路の研究	吉岡 邦浩	放射線医学講座(循環器)	2,730,000	補 委	文部科学省
磁気共鳴分光法を用いた脳内代謝物質による新生児重症仮死の高精度予後予測法の確立	赤坂 真奈美	小児科学講座	1,300,000	補 委	文部科学省
非アポトーシス細胞死制御による非アルコール性脂肪肝炎の治療法確立の試み	柿坂 啓介	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,040,000	補 委	文部科学省
高度肥満者の内臓脂肪組織における調節機構破綻のメカニズムの解明	石垣 泰	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	1,820,000	補 委	文部科学省
脳転移指向性乳癌細胞株および乳癌原発組織を用いた脳転移予測バイオマーカーの探索	石田 和茂	外科学講座	1,170,000	補 委	文部科学省
歩行機能に与える圧迫性脊髄症に対する除圧術の影響と脳循環代謝変化との相関	菅原 淳	脳神経外科学講座	2,340,000	補 委	文部科学省
脳虚血再灌流時の内頸静脈血中血管ホルモン動態解析による脳血流自動調節機構の解明	吉田 研二	脳神経外科学講座	1,560,000	補 委	文部科学省
頸動脈内膜剥離術を用いた脳循環不全性認知症とアルツハイマー病の関連の解明	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	2,210,000	補 委	文部科学省
子宮体部漿液性癌の治療抵抗性を克服する新規治療法の開発	馬場 長	産婦人科学講座	429,827	補 委	文部科学省
ウスタビガ菌シルクプロテインとiPS細胞による歯槽骨再生技術の開発	菊池 和子	口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	1,300,000	補 委	文部科学省
デジタル技術の応用による咀嚼運動に調和した補綴装置製作法の開発	田邊 憲昌	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	1,430,000	補 委	文部科学省
口腔機能・形態の発育を担う顎顔面骨格筋局所に発現するアミノ酸センサーの役割	森川 和政	口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	910,000	補 委	文部科学省
周術期口腔粘膜炎症インディケータとしての唾液炎症マーカーの検討	岸 光男	口腔医学講座予防歯科学分野	2,080,000	補 委	文部科学省
がん終末期における地域医療連携の質を評価するための新指標開発に関する研究	木村 祐輔	緩和医療学科	1,820,000	補 委	文部科学省

小計18件

行動変容プロセス評価と検証による生活習慣病重症化予防のための多因子治療の探索	旭 浩一	内科学講座腎・高血圧内科学分野	1,430,000	補委 文部科学省
卵巣がんにおける免疫逃避機構改善を目指した新規ウイルス療法の開発	利部 正裕	産婦人科学講座	1,430,000	補委 文部科学省
大動脈弁通過血流解析システムの開発および弁石灰化に与える影響の解明	折居 誠	放射線医学講座	1,170,000	補委 文部科学省
膠芽腫におけるPETを用いた腫瘍幹細胞高密度領域を同定する研究	佐藤 雄一	脳神経外科学講座	260,000	補委 文部科学省
DRLs2015以降のCT検査被ばくの検証—さらなる被ばく低減を目指して—	田村 明生(赤羽明生)	放射線医学講座	650,000	補委 文部科学省
OCP/CollagenとMSCの複合体による顎骨再建法の確立	川井 忠	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	640,409	補委 文部科学省
炎症性刺激に影響されない細胞内シグナルを利用した新規骨再生療法の確立	横田 潤	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	1,430,000	補委 文部科学省
B型肝炎スクリーニング再構築に向けたmicroRNAによる発癌予測手法の確立	吉田 雄一	内科学講座消化器内科肝臓分野	2,210,000	補委 文部科学省
気管支喘息患者の気道リモデリングにおけるIL-24の新たな作用に関する研究	長島 広相	内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	780,000	補委 文部科学省
STIC法を用いた造影頸動脈超音波検査によるブランク内新生血管の観察	大浦 一雅	内科学講座神経内科・老年科分野	1,690,000	補委 文部科学省
肥満外科手術後の腸内・口腔内細菌叢の変化と肥満関連健康障害の改善機序の解明	馬場 誠朗	外科学講座	1,950,000	補委 文部科学省
抗炎症性血球細胞ニッチとしての間葉系幹細胞を利用したアテローム治療法の開発	滝沢 尚希	歯科保存学講座歯周療法学分野	1,430,000	補委 文部科学省
超高精細CTによる冠動脈CTの基礎検討および臨床応用	高木 英誠	放射線医学講座	1,040,000	補委 文部科学省
大腸腫瘍における体細胞染色体コピー数変化の網羅的解析	永塚 真	病理診断学講座	2,860,000	補委 文部科学省
早期胃癌のマイクロサテライト不安定性は免疫組織化学的染色のみで同定出来るか？	杉本 亮	病理診断学講座	1,300,000	補委 文部科学省
消化管癌のctDNAによる長期間モニタリングシステムの構築	佐藤 慧	外科学講座	2,080,000	補委 文部科学省
非造影超音波エコーを用いた頸動脈ブランク客観的評価指標確立と性状診断法の開発	及川 公樹	脳神経外科学講座	2,730,000	補委 文部科学省
急性肝不全に対する組織修復幹細胞(Muse細胞)の細胞治療に向けた理論基盤構築	鈴木 悠地	内科学講座消化器内科肝臓分野	2,470,000	補委 文部科学省

小計18件

超高磁場1H-MRSおよびPETを用いたヒト貧困灌流における脳温度変化の解明	南波 孝昌	脳神経外科学講座	3,120,000	補 委	文部科学省
残尿が筋層非浸潤性膀胱癌の再発に及ぼす生理・生化学的探索	加藤 陽一郎	泌尿器科学講座	910,000	補 委	文部科学省
子宮体癌の分子病理学的検討	深川 安寿子	産婦人科学講座	1,690,000	補 委	文部科学省
口腔扁平上皮癌の細胞接着によるHippo経路活性化に着目した抗浸潤転移療法の確立	齋藤 大嗣	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	1,950,000	補 委	文部科学省
筋電図パワースペクトル解析を用いた前十字靭帯再建者の大腿四頭筋筋線維組成の検討	西村 行秀	リハビリテーション医 学科	2,600,000	補 委	文部科学省
ヘリコバクターピロリ除菌後胃癌の臨床病理学的特徴に関する研究	松本 主之	内科学講座 消化器 内科消化管分野	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における急性肝障害例の成因解明と重症化要因の解析	滝川 康裕	内科学講座 消化器 内科肝臓分野	1,000,000	補 委	岩手県
東日本大震災地域における心電図異常の新規出現に関連する因子の検討	中村 元行	内科学講座 心 血管・腎・内分泌内科分 野	1,000,000	補 委	岩手県
肺がんドライバー遺伝子変異及び組織型と関連した微量元素の検討	前門戸 任	内科学講座 呼吸 器・アレルギー・膠原 病内科分野	1,000,000	補 委	岩手県
全自動血液凝固能測定器を用いた脳梗塞に対する抗血栓療法の最適化に関する研究	寺山 靖夫	内科学講座 神経内 科・老年科分野	1,000,000	補 委	岩手県
糖尿病性腎症重症化予防と新しい尿マーカーの意義の検討	石垣 泰	内科学講座 糖尿 病・代謝内科分野	1,000,000	補 委	岩手県
血液疾患の発熱性好中球減少症におけるプレセプシンの有用性の検討	石田 高司	内科学講座 血液腫 瘍内科分野	1,000,000	補 委	岩手県
本県における「12誘導心電図伝送」システムの導入効果に関する客観的検討	森野 禎浩	内科学講座 循環器 内科分野	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における肥満症の実態調査と効果的な治療戦略	佐々木 章	外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
虚血発症成人もやもや病に対する間接血行再建術単独の適応と効果に関する研究	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
自己心膜を用いた大動脈弁再建術	金 一	心臓血管外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における高位脛骨骨切り術施行状況の調査と術後成績の検討	土井田 稔	整形外科科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における糖尿病性足病変患者に対して足切断予防のための、非侵襲血流測定計および血流可視装置活用の検討	櫻庭 実	形成外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県

小計18件

岩手県産婦人科医療における専門医育成研修プログラムを利用した大学病院および県立病院連携の強化	杉山 徹	産婦人科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
新生児急性腎障害の予後改善に関する研究	小山 耕太郎	小児科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
移植腎のサイトカイン発現解析による腎機能予後関連因子の探索 ～岩手県の腎移植増進に向けて～	小原 航	泌尿器科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
Pepperロボットとストレスチェッカーを活用した双方向性のメンタルヘルスとストレスコーピングに関する次世代型心理教育および予防的アプローチ創出に関するパイロット研究	大塚 耕太郎	神経精神科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
救急搬送された外傷性疾患に対する緊急塞栓術の予後因子の検討	江原 茂	放射線医学講座	1,000,000	補 委	岩手県
経カテーテル的大動脈弁置換術(Transcatheter aortic valve implantation: TAVI)における微小循環の変化～外科的大動脈弁置換術(surgical aortic valve replacement: SAVR)との比較～	鈴木 健二	麻酔学講座	1,000,000	補 委	岩手県
遠隔病理診断システムを用いた全県にわたる病病連携体制の構築 ー岩手モデルの確立を目指してー	菅井 有	病理診断学講座	1,000,000	補 委	岩手県
藤田記念医学研究振興基金研究助成事業	八重樫 瑞典	外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
糖尿病予防のための戦略研究課題3 (J-DOIT3)	石垣 泰	内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	300,000	補 委	公益財団法人 日本糖尿病財団

小計9件
合計97件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Gonai, T; Toya, Y; Nakamura, S et al	内科学講座 消化器内科消化管分野	Gastrointestinal: Idiopathic myointimal hyperplasia of mesenteric veins	J Gastroenterol Hepatol. 2018 Dec;33:1939	Others
2	Toya, Y; Nakamura, S; Fujita, Y et al	内科学講座 消化器内科消化管分野	Coexistence of early cancer and mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma in Helicobacter pylori-eradicated stomach	Gastrointest Endosc. 2018 Nov;88:877-878.	Others
3	Toya, Y; Nakamura, S; Urushikubo, J et al	内科学講座 消化器内科消化管分野	Diffuse Cystic Malformation with Early Gastric Cancer	J Gastrointest Surg. 2018 Jun;22:1130-1131.	Others
4	Urushikubo, J; Yanai, S; Nakamura, S et al	内科学講座 消化器内科消化管分野	Practical fecal calprotectin cut-off value for Japanese patients with ulcerative colitis	World J Gastroenterol. 2018 Oct;24:4384-4392.	Original Article
5	Yamaguchi S, Yanai S, Nakamura S, et al	内科学講座 消化器内科消化管分野	Immunohistochemical differentiation between chronic enteropathy associated with SLCO2A1 gene and other inflammatory bowel diseases.	Intest Res. 2018 Jul;16:393-399.	Original Article
6	Yanai, S; Nakamura, S; Matsumoto, T	内科学講座 消化器内科消化管分野	Indigo naturalis-induced colitis	Dig Endosc. 2018 Nov;30:791.	Letter
7	Yanai S, Yamaguchi S, Nakamura S et al.	内科学講座 消化器内科消化管分野	Distinction between Chronic Enteropathy Associated with the SLCO2A1 Gene and Crohn's Disease.	Gut Liver. 2019 Jan;13:62-66.	Original Article
8	Abe, T; Kuroda, H; Fujiwara, Y et al	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Accuracy of 2D shear wave elastography in the diagnosis of liver fibrosis in patients with chronic hepatitis C	J Clin Ultrasound. 2018 Jun;46:319-327.	Original Article
9	Endo, K; Kuroda, H; Kakisaka, K et al	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Hepatic Angiomyolipoma Staining in the Post-vascular Phase of Contrast-enhanced Ultrasound Due to the Presence of Macrophages	Intern Med. 2018 May;57:1247-1251.	Case Report
10	Fujiwara, Y; Kuroda, H; Abe, T et al	内科学講座 消化器内科肝臓分野	THE B-MODE IMAGE-GUIDED ULTRASOUND ATTENUATION PARAMETER ACCURATELY DETECTS HEPATIC STEATOSIS IN CHRONIC LIVER DISEASE	Ultrasound Med Biol. 2018 Nov;44:2223-2232.	Original Article
11	Kakisaka, K; Endo, K; Sugimoto, R et al	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Budd-Chiari Syndrome and Esophageal Achalasia: Unrecognized Intrahepatic Cholangiocarcinoma Invading Multiple Organs	Intern Med. 2018 Aug;57:2197-2201.	Case Report
12	Kakisaka, K; Suzuki, Y; Fujiwara, Y et al	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Evaluation of ballooned hepatocytes as a risk factor for future progression of fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease	J Gastroenterol. 2018 Dec;53:1285-1291	Original Article

13	Miyasaka, A; Yoshida, Y; Yoshida, T et al	内科学講座 消化器内科肝臓分野	The Real-world Efficacy and Safety of Ombitasvir/Paritaprevir/Ritonavir for Hepatitis C Genotype 1	Intern Med. 2018 Oct;57:2807-2812.	Original Article
14	Sasaki, T; Suzuki, Y; Ishida, K et al	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Autoimmune hepatitis following influenza virus vaccination: Two case reports	Medicine (Baltimore). 2018 Jul;97:e11621.	Original Article
15	Suzuki, K; Endo, R; Takikawa, Y et al	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Efficacy and safety of rifaximin in Japanese patients with hepatic encephalopathy: A phase II/III, multicenter, randomized, evaluator-blinded, active-controlled trial and a phase III, multicenter, open trial	Hepatol Res. 2018 May;48:411-423.	Original Article
16	Suzuki, Y; Kakisaka, K; Matsumoto, T et al	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Orthotopic liver transplantation for haemophilia A may not always lead to a phenotypic cure of haemophilia A: A case report	Haemophilia. 2018 Nov;24:e420-e422	Letter
17	Endo K, Kuroda H, Oikawa T et al.	内科学講座 消化器内科肝臓分野	Efficacy of combination therapy with transcatheter arterial chemoembolization and radiofrequency ablation for intermediate-stage hepatocellular carcinoma.	Scand J Gastroenterol. 2018 Dec;53:1575-1583.	Original Article
18	Endo K, Oikawa T, Kakisaka K et al.	内科学講座 消化器内科肝臓分野	The impact of portal vein thrombosis on the prognosis and liver function of nonmalignant cirrhotic patients.	Scand J Gastroenterol. 2018 Oct - Nov;53:1340-1346.	Original Article
19	Yashiro, S; Kameda, H; Chida, A et al	内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	Evaluation of Lenticulostriate Arteries Changes by 7 T Magnetic Resonance Angiography in Type 2 Diabetes	J Atheroscler Thromb. 2018 Oct;25:1067-1075.	Original Article
20	Ishigaki Y, Kawagishi N, Hasegawa Y et al.	内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	Liver Transplantation for Homozygous Familial Hypercholesterolemia.	J Atheroscler Thromb. 2019 Feb;26:121-127.	Review
21	Hozawa, M; Morino, Y; Matsumoto, Y et al	内科学講座 循環器内科分野	3D-computed tomography to compare the dimensions of the left atrial appendage in patients with normal sinus rhythm and those with paroxysmal atrial fibrillation	Heart Vessels. 2018 Jul;33:777-785.	Original Article
22	Komatsu, T; Kunugita, F; Ozawa, M et al	内科学講座 循環器内科分野	Relationship between Impairment of the Vascular Endothelial Function and the CHA(2)DS(2)-VASc Score in Patients with Sinus Rhythm and Non-valvular Atrial Fibrillation	Intern Med. 2018 Aug;57:2131-2139.	Original Article
23	Komi, R; Tanaka, F; Omama, S et al	内科学講座 循環器内科分野	Burden of high blood pressure as a contributing factor to stroke in the Japanese community-based diabetic population	Hypertens Res. 2018 Jul;41:531-538	Original Article
24	Matsushita, N; Ishida, N; Ibi, M et al	内科学講座 循環器内科分野	Chronic Pressure Overload Induces Cardiac Hypertrophy and Fibrosis via Increases in SGLT1 and IL-18 Gene Expression in Mice	Int Heart J. 2018 Sep;59:1123-1133.	Original Article
25	Matsushita, S; Suzuki, K; Murashima, A et al	内科学講座 循環器内科分野	Regulation of masculinization: androgen signalling for external genitalia development	Nat Rev Urol. 2018 Jun;15:358-368.	Review
26	Tanaka, K; Ishida, M; Tanaka, R et al	内科学講座 循環器内科分野	Endovascular Embolization of Coronary Artery-Pulmonary Artery Fistulas with Double Coronary Aneurysms A Case Report	Int Heart J. 2018 Jul;59:868-872.	Case Report
27	Tanaka, K; Tanaka, F; Onoda, T et al	内科学講座 循環器内科分野	Prognostic Value of Electrocardiographic Left Ventricular Hypertrophy on Cardiovascular Risk in a Non-Hypertensive Community-Based Population	Am J Hypertens. 2018 Jul;31:895-901.	Original Article
28	Ishida M, Itoh T, Nakajima S et al.	内科学講座 循環器内科分野	A Low Early High-density Lipoprotein Cholesterol Level is an Independent Predictor of In-hospital Death in Patients with Acute Coronary Syndrome.	Intern Med. 2019 Feb;58:337-343.	Original Article

29	Morino Y, Terashita D, Otake H et al.	内科学講座 循環器内科分野	Early vascular responses to everolimus-eluting cobalt-chromium stent in the culprit lesions of st-elevation myocardial infarction: results from a multicenter prospective optical coherence tomography study (MECHANISM-AMI 2-week follow-up study).	Cardiovasc Interv Ther. 2019 Jan;34:14-24.	Original Article
30	Abe K, Nakamura Y, Yamauchi K et al	内科学講座 呼吸器・アレルギー・膠原病 内科分野	Role of genetic variations of chitinase 3-like 1 in bronchial asthmatic patients.	Clin Mol Allergy. 2018 Apr;16:9.	Original Article
31	Natori T, Narumi S, Suzuki T, et al	内科学講座 神経内科・老年科分野	An Anatomical Variation in the Cervical Carotid Artery of a Young Stroke Patient.	Intern Med. 2019 Jan;58:123-126.	Case Report
32	Oura, K; Kato, T; Ohba, H et al	内科学講座 神経内科・老年科分野	Evaluation of Intraplaque Neovascularization Using Superb Microvascular Imaging and Contrast-Enhanced Ultrasonography	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2018 Sep;27:2348-2353.	Original Article
33	Akiyama, Y; Sasaki, A; Endo, F et al	外科学講座	Outcomes of esophagectomy after chemotherapy with biweekly docetaxel plus cisplatin and fluorouracil for advanced esophageal cancer: a retrospective cohort analysis	World J Surg Oncol. 2018 Jul;16:122.	Original Article
34	Fujisawa R, Akiyama Y, Iwaya T et al	外科学講座	Giant gastrointestinal stromal tumor of the mediastinum associated with an esophageal hiatal hernia and chest discomfort: a case report.	Surg Case Rep. 2018 Dec;4:144.	Case Report
35	Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T et al	外科学講座	Laparoscopic left hemihepatectomy is suitable as a first step in pure laparoscopic major hepatectomy.	Ann Gastroenterol Surg. 2018 Jul;2:376-382.	Original Article
36	Akiyama Y, Iwaya T, Endo F et al.	外科学講座	Thoracoscopic esophagectomy with total meso-esophageal excision reduces regional lymph node recurrence.	Langenbecks Arch Surg. 2018 Dec;403:967-975.	Original Article
37	Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, et al.	外科学講座	Evaluation of the need for routine feeding jejunostomy for enteral nutrition after esophagectomy.	J Thorac Dis. 2018 Dec;10:6854-6862.	Original Article
38	Umemura A, Suto T, Nakamura S et al.	外科学講座	Comparison of Single-Incision Laparoscopic Cholecystectomy versus Needlescopic Cholecystectomy: A Single Institutional Randomized Clinical Trial.	Dig Surg. 2019;36:53-58.	Original Article
39	Chiba, T; Setta, K; Shimada, Y et al	脳神経外科学講座	Comparison of Effects between Clopidogrel and Cilostazol on Cerebral Perfusion in Nonsurgical Adult Patients with Symptomatically Ischemic Moyamoya Disease: Subanalysis of a Prospective Cohort	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2018 Nov;27:3373-3379.	Original Article
40	Kojima, D; Komoribayashi, N; Omama, S et al	脳神経外科学講座	Crossed Cerebellar Tracer Uptake on Acute-Stage 123I-Iomazenil SPECT Imaging Predicts 3-Month Functional Outcome in Patients With Nonfatal Hypertensive Putaminal or Thalamic Hemorrhage	Clin Nucl Med. 2018 Jun;43:396-401.	Original Article
41	Kubo, Y; Koji, T; Kondo, R et al	脳神経外科学講座	Intraoperative monitoring of cerebral cortical blood flow and middle cerebral artery pressure as a substitute for preoperative balloon test occlusion in patients with internal carotid artery aneurysms	Acta Neurochir (Wien). 2018 Jun;160:1129-1137.	Original Article
42	Matsumoto, Y; Kashimura, H; Aso, K et al	脳神経外科学講座	Primary Central Nervous System Lymphoma Presenting as Growing Intracerebral Hemorrhage	World Neurosurg. 2018 Aug;116:155-158.	Case Report
43	Oshida S, Mori F, Ogasawara K.	脳神経外科学講座	Response by Oshida et al to Letter Regarding Article, "Wall Shear Stress and T1 Contrast Ratio Are Associated With Embolic Signals During Carotid Exposure in Endarterectomy".	Stroke. 2018 Dec;49:e342.	Letter
44	Oshida, S; Mori, F; Sasaki, M et al	脳神経外科学講座	Wall Shear Stress and T1 Contrast Ratio Are Associated With Embolic Signals During Carotid Exposure in Endarterectomy	Stroke. 2018 Sep;49:2061-2066.	Original Article

45	Sato, S; Kojima, D; Shimada, Y et al	脳神経外科学講座	Preoperatively reduced cerebrovascular contractile reactivity to hypocapnia by hyperventilation is associated with cerebral hyperperfusion syndrome after arterial bypass surgery for adult patients with cerebral misery perfusion due to ischemic moyamoya disease	J Cereb Blood Flow Metab. 2018 Jun;38:1021-1031.	Original Article
46	Setta, K; Kojima, D; Shimada, Y et al	脳神経外科学講座	Accuracy of brain perfusion single-photon emission computed tomography for detecting misery perfusion in adult patients with symptomatic ischemic moyamoya disease	Ann Nucl Med. 2018 Nov;32:611-619.	Original Article
47	Shimada, Y; Kojima, D; Yoshida, J et al	脳神経外科学講座	Transient Symptomatic Downregulation of Cortical Neurotransmitter Receptor Function Due to Cerebral Hyperperfusion after Arterial Bypass Surgery for a Patient with Ischemic Moyamoya Disease	Neurol Med Chir (Tokyo). 2018 Nov;58:481-484.	Case Report
48	Tsutsui, S; Nanba, T; Yoshioka, Y et al	脳神経外科学講座	Preoperative brain temperature imaging on proton magnetic resonance spectroscopy predicts hemispheric ischemia during carotid endarterectomy for unilateral carotid stenosis with inadequate collateral blood flow	Neurol Res. 2018 Aug;40:617-623.	Original Article
49	Ando S, Tsutsui S, Miyoshi K, et al.	脳神経外科学講座	Cilostazol may improve cognition better than clopidogrel in non-surgical adult patients with ischemic moyamoya disease: subanalysis of a prospective cohort.	Neurol Res. 2019 May;41:480-487.	Original Article
50	Beppu T, Sato Y, Sasaki T et al.	脳神経外科学講座	Comparisons Between PET With 11C-Methyl-L-Methionine and Arterial Spin Labeling Perfusion Imaging in Recurrent Glioblastomas Treated With Bevacizumab.	Clin Nucl Med. 2019 Mar;44:186-193.	Original Article
51	Kobayashi M, Yoshida K, Kojima D et al.	脳神経外科学講座	Impact of external carotid artery occlusion at declamping of the external and common carotid arteries during carotid endarterectomy on development of new postoperative ischemic cerebral lesions.	J Vasc Surg. 2019 Feb;69:454-461.	Original Article
52	Oikawa, R; Fujita, Y; Murakami, H et al	整形外科科学講座	Evaluation of the serum ionic fluoride concentration as a biomarker of bone metabolism post-spinal fusion surgery	Clin Chim Acta. 2018 Sep;484:132-135.	Original Article
53	Saeki, E; Yasuhira, S; Shibazaki, M et al	整形外科科学講座	Involvement of C-terminal truncation mutation of kinesin-5 in resistance to kinesin-5 inhibitor	PLoS One. 2018 Dec;13:e0209296.	Original Article
54	Sato, K; Murakami, K; Mimata, Y et al	整形外科科学講座	Conservative treatment of distal ulna metaphyseal fractures associated with distal radius fractures in elderly people	Orthop Traumatol Surg Res. 2018 Nov;104:1101-1105.	Original Article
55	Sasaki, K; Sugai, T; Ishida, K et al	形成外科学講座	Analysis of cancer-associated fibroblasts and the epithelial-mesenchymal transition in cutaneous basal cell carcinoma, squamous cell carcinoma, and malignant melanoma	Hum Pathol. 2018 Sep;79:1-8.	Original Article
56	Chida, H; Kikuchi, A; Kagabu, T et al	産婦人科学講座	Primary Rectal Abdominal Pregnancy Treated by Low Anterior Resection A Case Report	J Reprod. Med. 2018 Mar-Apr;63:165-167	Case Report
57	Fukagawa D, Sugai T, Osakabe M et al	産婦人科学講座	Protein expression patterns in cancer-associated fibroblasts and cells undergoing the epithelial-mesenchymal transition in ovarian cancers.	Oncotarget. 2018 Jun;9:27514-27524.	Original Article
58	Shoji, T; Komiyama, S; Kigawa, J et al	産婦人科学講座	An open-label, randomized, phase II trial evaluating the efficacy and safety of standard of care with or without bevacizumab in platinum-resistant epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer patients previously treated with bevacizumab for front-line or platinum-sensitive ovarian cancer: rationale, design, and methods of the Japanese Gynecologic Oncology Group study JGOG3023	BMC Cancer. 2018 Jul;18:771.	Others
59	Akasaka, M; Kamei, A; Araya, N et al	小児科学講座	Characteristic proton magnetic resonance spectroscopy in glucose transporter type 1 deficiency syndrome	Pediatr Int. 2018 Oct;60:978-979.	Others

60	Kamei, A; Akasaka, M; Araya, N et al	小児科学講座	Successful Management of Fulminant Guillain-Barre Syndrome and Its Complications	Pediatr Emerg Care. 2018 May;34:e87-e89.	Case Report
61	Takahashi S, Takizawa Y, Nakano S et al	小児科学講座	Transcatheter Coil Embolization of Single Coronary Artery Fistula Using the Occlusion Test.	Case Rep Cardiol. 2018 May;2018:7505283.	Case Report
62	Takahashi, S; Takizawa, Y; Nakano, S et al	小児科学講座	A refractory hypertensive patient with fibromuscular dysplasia and multicystic dysplastic kidney	J Med Ultrason (2001). 2018 Oct;45:657-660.	Case Report
63	Sotodate G, Matsumoto A, Konishi Y et al.	小児科学講座	Fetal intracranial hemorrhage due to maternal subclinical vitamin K deficiency associated with long-term eating disorder.	J Obstet Gynaecol Res. 2019 Feb;45:461-465.	Case Report
64	Kaneshiro, S; Hiraumi, H; Shimamoto, K et al	耳鼻咽喉科学講座	Cochlear implant function in a patient with Jervell and Lange-Nielsen syndrome after defibrillation by countershock	Auris Nasus Larynx. 2018 Aug;45:890-893.	Case Report
65	Miyaguchi, J; Shiga, K; Ogawa, K et al	耳鼻咽喉科学講座	Treatment with Lactobacillus Retards the Tumor Growth of Head and Neck Squamous Cell Carcinoma Cells Inoculated in Mice	Tohoku J Exp Med. 2018 Aug;245:269-275.	Original Article
66	Oikawa, K; Kobayashi, Y; Hiraumi, H et al	耳鼻咽喉科学講座	Body balance function of cochlear implant patients with and without sound conditions	Clin Neurophysiol. 2018 Oct;129:2112-2117.	Original Article
67	Oikawa, SI; Shiga, K; Saito, D et al	耳鼻咽喉科学講座	Association between contrast-enhanced ultrasonography and histopathological findings of the metastatic lymph nodes of patients with head and neck cancer: A preliminary study	Oncol Lett. 2018 Apr;15:4171-4176.	Original Article
68	Mori, S; Akasaka, T; Amano, H	皮膚科学講座	Keratosis follicularis squamosa (Dohi) successfully treated with benzoyl peroxide 2.5% gel	J Dermatol. 2018 Apr;45:e70-e71.	Letter
69	Tsunoda, K; Akasaka, K; Akasaka, T et al	皮膚科学講座	Successful treatment of erythematotelangiectatic rosacea with intense pulsed light: Report of 13 cases	J Dermatol. 2018 Sep;45:1113-1116.	Others
70	Watabe, D; Watanabe, A; Akasaka, T et al	皮膚科学講座	Psoriasis-like Dermatitis in Adulthood: A Skin Manifestation of Holocarboxylase Synthetase Deficiency	Acta Derm Venereol. 2018 Aug;98:805-806	Others
71	Onishi M, Maeda F, Akasaka T et al.	皮膚科学講座	Monitoring serum cytokeratin 19 fragment 21-1 to determine the efficacy of docetaxel chemotherapy in advanced extramammary Paget's disease.	J Dermatol. 2019 Mar;46:e83-e84.	Letter
72	Ikarashi, D; Kato, Y; Kanehira, M et al	泌尿器科学講座	Appropriate preoperative membranous urethral length predicts recovery of urinary continence after robot-assisted laparoscopic prostatectomy	World J Surg Oncol. 2018 Nov;16:224.	Original Article
73	Ikarashi, D; Kato, Y; Katagiri, H et al	泌尿器科学講座	Case of complete response to neoadjuvant therapy using nivolumab in a patient with metastatic renal cell carcinoma	Int J Urol. 2018 Jun;25:630-632.	Case Report
74	Kato, Y; Kato, R; Takayama, M et al	泌尿器科学講座	Single-stage laparoscopic surgery for bilateral organ tumors using a transumbilical approach with a zigzag incision: a report of two cases	BMC Urol. 2018 May 2;18:28.	Case Report
75	Kato, Y; Zembutsu, H; Takata, R et al	泌尿器科学講座	A prospective study to examine the accuracies and efficacies of prediction systems for response to neoadjuvant chemotherapy for muscle invasive bladder cancer	Oncol Lett. 2018 Nov;16:5775-5784.	Original Article

76	Matsuura, T; Abe, T; Onoda, M et al	泌尿器科学講座	Pelvic Artery Calcification Score Is a Marker of Vascular Calcification in Male Hemodialysis Patients	Ther Apher Dial. 2018 Oct;22:509-513.	Original Article
77	Obara, W; Hara, I; Kato, Y et al	泌尿器科学講座	Immunotherapy with cancer peptides in combination with intravesical bacillus Calmette-Guerin for patients with non-muscle invasive bladder cancer	Cancer Immunol Immunother. 2018 Sep;67:1371-1380.	Original Article
78	Tamura D, Ito A, Kikuchi D et al.	泌尿器科学講座	Laparoscopic nephrectomy in a patient with severe scoliosis: A case report.	Asian J Endosc Surg. 2019 Jan;12:122-124.	Case Report
79	Nakamura, R; Kakuhara, H; Kikuchi, K et al	放射線医学講座	Partial Bladder Boost Using Lipiodol Marking During Image-guided Radiotherapy for Bladder Cancer	Anticancer Res. 2018 Aug;38:4827-4831.	Original Article
80	Orii M, Hirata K, Takemoto K et al	放射線医学講座	Effect of Erythropoietin Administration on Myocardial Viability and Coronary Microvascular Dysfunction in Anterior Acute Myocardial Infarction: Randomized Controlled Trial in the Japanese Population.	Cardiol Ther. 2018 Dec;7:151-162.	Original Article
81	Takagi, H; Tanaka, R; Nagata, K et al	放射線医学講座	Diagnostic performance of coronary CT angiography with ultra-high-resolution CT: Comparison with invasive coronary angiography	Eur J Radiol. 2018 Apr;101:30-37.	Original Article
82	Tamura, A; Nakasato, T; Izumisawa, M et al	放射線医学講座	Same-Day Preventive Embolization and Surgical Excision of Carotid Body Tumor	Cardiovasc Intervent Radiol. 2018 Jun;41:979-982.	Letter
83	Yoshioka, K; Tanaka, R; Takagi, H et al	放射線医学講座	Systematic evaluation of collateral pathways to the artery of Adamkiewicz using computed tomography	Eur J Cardiothorac Surg. 2018 Jul;54:19-25.	Original Article
84	Yamaguchi S, Sato E.	放射線医学講座	Product development of a condenser dosimeter using a skin-insulated USB-A-substrate with a silicon X-ray diode.	Radiol Phys Technol. 2019 Mar;12:69-75.	Original Article
85	Koishi, W; Kumagai, M; Ogawa, S et al	麻酔学講座	Monitoring the Oxygen Reserve Index can contribute to the early detection of deterioration in blood oxygenation during one-lung ventilation	Minerva Anesthesiol. 2018 Sep;84:1063-1069.	Original Article
86	Omama, S; Inoue, Y; Fujiwara, H et al	岩手県高度救命救急センター	First aid stations and patient demand in tsunami-affected areas of Iwate Prefecture following the Great East Japan Earthquake	Int J Disaster Risk Reduct. 2018 Oct;31:435-440.	Original Article
87	Sato, H; Ishida, K; Sasaki, S et al	岩手県高度救命救急センター	Regulating migration of esophageal stents - management using a Sengstaken-Blakemore tube: A case report and review of literature	World J Gastroenterol. 2018 Jul;24:3192-3197.	Case Report
88	Suzuki Y, Kojika M, Sato H et al.	岩手県高度救命救急センター	Clinical Effects of Polymyxin B Hemoperfusion in Patients With Septic Shock Caused by Urinary Tract Infection.	Ther Apher Dial. 2019 Feb;23:80-85.	Original Article
89	Eizuka M, Kawasaki K, Toya Y et al	病理診断学講座	Colorectal Adenocarcinoma with an Alternative Serrated Pathway.	Case Rep Gastroenterol. 2018 Apr;12:116-124.	Case Report
90	Fujita, Y; Kishimoto, M; Dohi, O et al	病理診断学講座	How to adjust endoscopic findings to histopathological findings of the stomach: a "histopathology-oriented" correspondence method helps to understand endoscopic findings	Gastric Cancer. 2018 May;21:573-577.	Others
91	Ishida, K; Tamura, A; Kato, K et al	病理診断学講座	Correlation between CT morphologic appearance and histologic findings in colorectal liver metastasis after preoperative chemotherapy	Abdom Radiol (NY). 2018 Nov;43:2991-3000.	Original Article

92	Sugai T, Eizuka M, Habano W et al	病理診断学講座	Comprehensive molecular analysis based on somatic copy number alterations in intramucosal colorectal neoplasias and early invasive colorectal cancers.	Oncotarget. 2018 May;9:22895-22906.	Original Article
93	Sugai, T; Eizuka, M; Arakawa, N et al	病理診断学講座	Molecular profiling and comprehensive genome-wide analysis of somatic copy number alterations in gastric intramucosal neoplasias based on microsatellite status	Gastric Cancer. 2018 Sep;21:765-775.	Original Article
94	Sugai, T; Eizuka, M; Fujita, Y et al	病理診断学講座	Molecular Profiling Based on KRAS/BRAF Mutation, Methylation, and Microsatellite Statuses in Serrated Lesions	Dig Dis Sci. 2018 Oct;63:2626-2638.	Original Article
95	Sugai, T; Uesugi, N; Kitada, Y et al	病理診断学講座	Analysis of the expression of cancer-associated fibroblast- and EMT-related proteins in submucosal invasive colorectal cancer	J Cancer. 2018 Jun;9:2702-2712.	Original Article
96	Ishida K, Yamashita R, Osakabe M, et al.	病理診断学講座	Expression of Epithelial-Mesenchymal Transition Proteins in Pancreatic Anaplastic (Undifferentiated) Carcinoma.	Pancreas. 2019 Jan;48:36-42.	Original Article
97	Nishijima, T; Ohba, K; Baba, S et al	睡眠医療学科	Decrease of Plasma Soluble (Pro)renin Receptor by Bariatric Surgery in Patients with Obstructive Sleep Apnea and Morbid Obesity	Metab Syndr Relat Disord. 2018 May;16:174-182.	Original Article
98	Yamamoto, K; Shimizu, A; Aizawa, F et al	臨床遺伝学科	A comparison of genome cohort participants' genetic knowledge and preferences to receive genetic results before and after a genetics workshop	J Hum Genet. 2018 Nov;63:1139-1147.	Original Article
99	Ikeda, A; Shiga, K; Katagiri, K et al	頭頸部外科学科	Multi-institutional survey of carotid body tumors in Japan	Oncol Lett. 2018 Apr;15:5318-5324	Original Article
100	Shiga, K; Katagiri, K; Saitoh, D et al	頭頸部外科学科	Long-Term Outcomes of Patients with Squamous Cell Carcinoma of the Temporal Bone after Concomitant Chemoradiotherapy	J Neurol Surg B Skull Base. 2018 Oct;79:S316-S321.	Original Article
101	Kobayashi, T; Kubota, M; Takahashi, T et al	補綴・インプラント学講座 補綴・インプラント学分野	Effects of tooth loss on brain structure: a voxel-based morphometry study	J Prosthodont Res. 2018 Jul;62:337-341.	Original Article
102	Miyamoto, I; Takahashi, T; Tanaka, T et al	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	Dense cancellous bone as evidenced by a high HU value is predictive of late implant failure: a preliminary study	Oral Radiol. 2018 Sep;34:199-207.	Original Article
103	Miyamoto, I; Yada, N; Osawa, K et al	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	Endocytoscopy for in situ real-time histology of oral mucosal lesions	Int J Oral Maxillofac Surg. 2018 Jul;47:896-899.	Others
104	Tanaka R, Yoshioka K, Takagi H et al	口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野	Novel developments in non-invasive imaging of peripheral arterial disease with CT: experience with state-of-the-art, ultra-high-resolution CT and subtraction imaging.	Clin Radiol. 2019 Jan;74:51-58.	Review
105	Takahashi N, Lee C, Da Silva JD et al.	口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野	A comparison of diagnosis of early stage interproximal caries with bitewing radiographs and periapical images using consensus reference.	Dentomaxillofac Radiol. 2019 Feb;48:20170450.	Original Article
106	Chiba T, Suzuki K, Matsumoto T	口腔医学講座 関連医学分野	Plasma-Free Amino Acid Profiles in Crohn's Disease: Relationship With the Crohn Disease Activity Index.	Clin Med Insights Gastroenterol. 2018 Jul;11:1179552218791173.	Original Article

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の審査事項、申請区分、開催日、審査方法、承認後の報告、記録の管理及び公開、申請書受付から審査結果までの流れ等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 学校法人岩手医科大学の職員等が行う産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切に管理（マネジメント）することによって、大学及び職員等の社会的信用及び名誉の保持及び社会貢献の推進を図ることを目的とする。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 8 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容 「改正指針と臨床研究法～現場での対応～」 「臨床研究法と認定臨床研究審査委員会」 「産学連携と利益相反マネジメント」 「臨床研究法における利益相反管理」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医学部卒業後2年間の臨床研修を修了した者を対象に、認定医および専門医等資格取得のための修練を実施している。各領域(科)に定める修練期間が異なるが、概ね次の3通りのパターンを設けており、各々のライフプランに合わせた研修を行う。

各科の研修は、自院のほか院外(連携)認定施設においても行われ、専門医等取得に向け各領域の定められた症例(数)の臨床経験、論文の執筆・発表および学会参加等、種々の研修を積む。

- ① 初期研修修了後、専門医取得に向けた専門研修を実施
(概ね、医学部卒業後6年目以降に専門医を取得)
- ② 初期研修中から社会人大学院へ進学し、博士号の取得と専門研修を並行して実施
(医学部卒業後4年で博士号、6年目以降に専門医を取得)
- ③ 初期研修修了後、社会人大学院へ進学と同時に専門研修を実施
(医学部卒業後6年で博士号、6年目以降に専門医を取得)

研修プログラムの例として、内科専門研修プログラム(研修期間:3年間)における研修例は以下のとおりである。各領域(科)に定められた所定の研修を修了した後、認定医や専門医試験の合格を経て、その資格を取得することとなる。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	ローテーション	内科Ⅰ(又は内科Ⅱ)				救急科			内科Ⅱ(又は内科Ⅰ)				
		月1回~2回のプライマリケア当直(大学で研修の場合は内科の一次二次救急当直)を行う											
	目標	基幹施設での研修 1年目にJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録 病歴要約を10編以上登録											
2年次	ローテーション	内科Ⅰ(又は内科Ⅱ)				総合診療科		救急科		内科Ⅱ(又は内科Ⅰ)			
	目標	基幹施設での研修 45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録											
3年次	ローテーション	選択内科(Subspecialty)や必要な疾患群を経験するための研修											
	目標	連携施設での研修 70疾患群を経験し200例以上を登録 2年次までに登録された病歴要約の改訂 内科専門医取得のための筆記試験											

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	91人
-------------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松本 主之	消化管内科	教授	33年	
滝川 康裕	肝臓内科	教授	36年	
石垣 泰	糖尿病・代謝内科	教授	25年	
田中 文隆（代）	腎・高血圧内科	教授	22年	
森野 禎浩	循環器内科	教授	25年	
前門戸 任	呼吸器・アレルギー・膠原病内科	教授	29年	
石田 高司	血液腫瘍内科	教授	22年	
寺山 靖夫	神経内科・老年科	教授	39年	
佐々木 章	外科	教授	30年	
小笠原 邦昭	脳神経外科	教授	34年	
金 一	心臓血管外科	教授	23年	
齊藤 元	呼吸器外科	教授	27年	
土井田 稔	整形外科	教授	34年	
櫻庭 実	形成外科	教授	28年	
小笠原 邦昭（代）	産婦人科	教授	34年	
小山 耕太郎	小児科	教授	38年	
佐藤 宏昭	耳鼻咽喉科	教授	36年	
志賀 清人	頭頸部外科	教授	36年	
黒坂 大次郎	眼科	教授	31年	
天野 博雄	皮膚科	教授	25年	
小原 航	泌尿器科	教授	21年	
大塚 耕太郎	精神神経科	教授	21年	
江原 茂	放射線診断科	教授	39年	
有賀 久哲	放射線治療科	教授	29年	
鈴木 健二	麻酔科	教授	33年	
井上 義博	救急科	教授	36年	
諏訪部 章	臨床検査科	教授	34年	
櫻井 滋	睡眠医療科	教授	37年	
菅井 有	病理診断科	教授	34年	
福島 明宗	臨床遺伝科	教授	34年	
伊藤 薫樹	臨床腫瘍科	教授	27年	
西村 行秀	リハビリテーション科	教授	22年	

下沖 収	総合診療科	教授	30年	
山田 浩之	口腔顎顔面再建学講座口腔外科分野	教授	26年	
佐藤 健一	口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野	教授	29年	
岸 光男	口腔医学講座予防歯科学分野	教授	30年	
佐藤 和朗	口腔保健育成学講座歯科矯正学分野	教授	27年	
森川 和政	口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者 歯科学分野	教授	13年	
野田 守	歯科保存学講座う蝕治療学分野	教授	27年	
八重柏 隆	歯科保存学講座歯周療法学分野	教授	32年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 小笠原 邦昭
管理担当者氏名	病院事務部長 塚澤 仁敏 及び 各所属課長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ又は薬剤部記録管理室
		手術記録	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ又は各診療科外来
		看護記録	診療記録保管室又は電子カルテシステムサーバ
		検査所見記録	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ等又は各診療科外来
		エックス線写真	診療記録保管室、放射線システムサーバ又は各診療科外来
		紹介状	診療記録保管室又は電子カルテシステムサーバ
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録保管室又は電子カルテシステムサーバ
		従業者数を明らかにする帳簿	人事職員課
		高度の医療の提供の実績	病院企画課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院企画課
		高度の医療の研修の実績	医師卒後臨床研修センター
		閲覧実績	病院企画課
		紹介患者に対する医療提供の実績	病院企画課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院企画課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療安全管理部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部、薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部		

・紙又は電子媒体で管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部、薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部、薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療福祉相談室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室、医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	病院企画課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院企画課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院企画課		

・紙又は電子媒体で管理している。

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長	塚澤 仁敏	
閲覧担当者氏名	病院企画課長 病院総務課長 医事課長 人事職員課長	佐藤 嘉英 吉田 博貴 本館 孝信 長岡 慶介	
閲覧の求めに応じる場所	諸記録閲覧室		
閲覧の手続の概要			
①諸記録閲覧にかかる案内文書を、病院正面玄関に掲示している。 ②諸記録閲覧の求めがあった場合は、諸記録閲覧室にて対応を行う。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0	件
	歯 科 医 師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本理念 (2) 医療事故防止のための基本的な考え方 (3) 医療安全管理における職員の責務 (4) 医療安全管理組織体制の確立 (5) 医療安全管理のための職員の教育・研修 (6) 医療の安全確保を目的とした改善のための方策 (7) 医療事故発生時の対応 (8) 医療事故等調査委員会の設置 (9) 患者相談窓口の設置 (10) 患者との情報共有 (11) 内部通報窓口の設置 (12) 医療安全に係る監査委員会 (13) 特定機能病院間の相互立入 (14) 高難度新規医療技術または未承認新規医薬品等を用いた医療提供 (15) 院内暴力への対応 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置および業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故、インシデント・アクシデント、手術オカレンス、死亡事例等の収集、原因調査、分析 2. 医療安全確保のための改善策の立案、職員への周知 3. 院内巡視等による改善策の実施状況の評価および見直し 4. 医療安全管理のための研修会の企画・立案・実施 5. 医療安全に関する情報の職員への提供および注意喚起 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 68 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合医療安全対策講習会（全13回：本開催1回、録画開催12回） 医療安全対策、医療関連感染制御、医薬品の安全使用、医療機器の研修 2. 医療安全対策講習会（全12回：本開催1回、録画開催11回） チーム医療とは何ですか。何ができるとよいですか。 －エビデンスに基づいたチーム医療のすゝめ：チームSTEPPS－ 3. 医薬品の安全使用に関する講習会・医療機器の安全使用の医療安全対策講習会（全12回：本開催1回、録画開催11回） 医薬品安全使用のための講習会、医療機器安全使用のための講習会 4. 新人研修（全10回） 5. BLS講習会（全2回） 6. 研修医・若手医師への研修会（全2回） 7. 医療安全に係る看護師研修（全2回） 8. 看護師による静脈留置針研修 講義と実技（全6回） 9. 血液浄化装置基礎講習会（全2回） 10. 人工呼吸器基礎講習会（全2回） 11. 危機回避講習会（人工呼吸器・AED）（全5回） 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

1. 病院長、副院長、医療安全管理部長、医療安全推進室等への管理部門への報告体制の確立と組織的対応の実施
2. 電子カルテネットワークを用いた報告システムの運用
3. 総合医療安全対策会議および緊急安全対策会議での事実確認および組織的対応の実施
4. 総合医療安全対策会議および医療安全推進委員会、医療安全推進室を通じた再発防止策の周知と徹底
5. 院内ラウンドによる評価、検証、フィードバックの実施
6. 事故等にかかる診療録、看護記録等の精査、指導
7. 東北厚生局、盛岡市保健所、日本医療機能評価機構への適切な報告
8. 医療安全管理のための医療安全対策マニュアルの整備

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策に関する基本的考え方 (2) 院内感染対策のための委員会、その他の組織に関する基本的事項 (3) 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 (4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 (5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針 (6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 (7) その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時および発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、病院長への報告 (2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案および実施並びに職員への周知を図る。 (3) 院内感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。 (4) 月1回開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 13 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>院内感染対策のための基本的考え方および具体的方策（別添）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染の発生状況を把握するため、病院における感染症の発生動向の情報を共有し、院内感染の発生の予防およびまん延の防止を図る。 (2) 重大な院内感染が発生し、院内のみでの対応が困難な事態が発生した場合、または発生したことが疑われる場合は地域の専門家等に相談が行われる体制の確保 (3) 「院内感染対策の指針」に即した院内感染対策マニュアルの整備、および見直し。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>2018. 5. 8 総合安全対策講習会「医薬品の安全管理について」 (全13回：本開催1回、録画開催12回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の安全使用のための業務手順書と薬効別一覧 2. 毒薬注射薬（筋弛緩薬）の取り扱い 3. 麻薬の取り扱い 4. 副作用の一元管理 5. 病院機能評価の受審へ向けて（医薬品関連） <p>2018. 12. 11 医薬品安全使用のための研修会・医療機器安全使用のための研修会 (全12回：本開催1回、録画開催11回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全通知・医薬品安全性情報通知から 2. 医薬品安全使用の業務手順書について 3. 医薬品安全性情報等の管理 4. 誤接続防止コネクタに国内導入について 5. 添付文書記載要領の変更 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成および当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>「医薬品の安全使用のための業務手順書」に基づいた「業務チェック表」を各部署に配布し、チェックしたものを回収し確認している。その回収した「業務チェック表」を基に、医療安全推進室の薬剤師・看護師および医薬品・栄養部会（医師・薬剤師・看護師など）で各部署を巡視し、指導を行っている。最終的に医薬品安全管理責任者が確認を行っている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：ヒスチジン銅など</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品安全管理巡視の継続（2016年度より開始） 2. 医薬品開封後の使用期限を記載するよう院内に周知し、医薬品開封後の使用期限表について医薬品名等を新しいものに更新 3. 病棟勉強会の開催（麻薬に関するもの：東2、集中治療部、その他：NICU） 4. 医薬品安全性通知を作成、配布し周知 <ul style="list-style-type: none"> ・ 炭酸リチウム投与中の血中濃度測定について ・ 免疫抑制作用を有する薬剤を投与する場合のHBV感染のスクリーニング実施について 	

- ・メルカゾール投与中の定期的な血液検査（白血球分画含む）の実施について
5. 医療安全情報通知を作成、配布し周知
 - ・医薬品・食品のアレルギー入力について
 - ・腫瘍用薬の総投与量の上限を超えた投与について
 - ・イノバン、ドプポン注シリンジの不具合について
 - ・麻薬、向精神薬、毒薬の管理徹底のお願いについて
 - ・持参薬の取り扱いについて
 - ・シリンジポンプサイフォニング現象（注意喚起）について
 - ・処方内容の未修正による再処方時の誤りについて
 - ・腎機能低下患者への薬剤の常用量投与について
 6. 各部門における定数医薬品の削除・削減の推進（特に高濃度注射用カリウム製剤、筋弛緩薬、第Ⅰ種・Ⅱ種向精神薬について）
 7. 経腸栄養剤のアレルギー成分表示について検討（医薬品マスタに成分を追加）
 8. 高濃度注射用カリウム製剤における医療事故防止について検討
(医薬品マスタに「要希釈」を追加)
 9. 薬剤の特性に合った管理ができるようハイリスク薬シールの見直しを行い、関連部署に配布

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 158 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 1. 新しい医療機器導入時の研修 2. 特定機能病院における定期研修 3. 臨床研修医、新人看護師および新入職員の研修 4. e-learningを用いた研修 5. その他の研修 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定および保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 1. 臨床工学技士による保守点検 年1または2回の院内における動作点検・消耗品の交換 2. メーカーまたは委託専門業者による保守点検 年1または2回の動作点検・消耗品の交換 3. 保守契約付リース機器の専門業者による保守点検 年1回の動作点検・消耗品の交換 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 医療機器の不具合情報や安全情報等の安全使用のために必要な情報を製造販売業者から一元的に収集し、得られた情報を医療機器に携わる職員に対して適切に提供 2. 医療機器の添付文書、一部取扱説明書等の医療機器の安全使用・保守点検に関する情報の整理および管理 3. 管理している医療機器の不具合や健康被害等に関する内外の情報収集に努め、病院管理者へ報告 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者および医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は副院長であり、医療安全管理部長および医療安全推進委員会委員長を兼務して、各組織を統括している。また、医薬品安全管理責任者・医療機器安全管理責任者は医療安全推進委員会委員であり、同委員会での報告を医療安全管理責任者が受けることにより、その業務を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬剤部医薬品情報管理室（DI室）において、厚労省、PMDA、日本医療機能評価機構、日本病院薬剤師会ホームページおよび製薬企業等から情報を収集し整理を行っている。また、医療安全推進室専従薬剤師と情報の共有を行っている。</p> <p>情報共有の周知方法としては、①定期的な医療安全推進室からの「医薬品・医療機器等安全性情報」「医薬品に関する院内インシデント報告」の配布および薬剤部からの「DIニュース」の発行配布。②必要に応じ、医療安全推進室からの「医療安全通知」および薬剤部からの「薬務連絡」「医薬品安全通知」により緊急の場合等に対応している。③電子カルテに「医薬品関連情報」ページを開設し、職員がいつでも確認できるようにしている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認・適応外・禁忌（併用・疾患）等については調剤時の疑義照会や病棟薬剤師による把握に努めている。把握できたデータは、持参薬鑑別時のものを含めて、医薬品情報管理室（DI室）に集約し、集計後、医薬品安全管理責任者に報告している。</p> <p>また、処方医に対する確認や指導を行う手順については、①調剤時や病棟薬剤師ができるだけ疑義照会を行う。②DI室で集約検討後、医薬品安全管理責任者と協議の上、「医薬品安全性情報」を作成し、文書にて全体への周知の他、該当診療科や担当医師へ報告を行っている。③状況に応じて、担当医師へ電子カルテや直接の報告を行い、検討を促すなど行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：（所属：薬剤部医薬品情報管理室， 職種 薬剤師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、および指導の主な内容：病状説明書・同意書を病院統一の様式に変更し、使用状況や記載内容を診療記録管理室が確認している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、および指導の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療記録監査委員会にて記載内容を確認し、不備がある場合は改善するよう指導 2. 看護記録は記録の質的監査を目的に看護記録監査を実施 監査方法は、看護記録監査用紙の監査項目の監査基準に沿って確認 緊急連絡先の不備等について指導 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（9）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（1）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に係る会議資料および議事録の作成等の事務 2. 事故等発生時の患者等への対応状況の確認および指導 3. 事故等の原因究明の実施状況等の確認および指導 4. 医療に関わる安全管理のための職員研修の企画立案・実施 5. 医療安全対策マニュアルの整備、職員への周知 6. 医療安全対策に関する職員への周知および評価 7. 医療安全に資する診療内容および従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリング -院内巡視によるスタッフミーティングで提起された改善策の実施確認 -全手術におけるオカレンスのモニタリング -1次2次外来におけるCT読影レポートの見落とし防止策の実施と指導、他 8. 医薬品および医療機器の安全使用に関する管理状況の確認および必要な指導 9. 患者相談窓口の相談情報の把握および相談体制への支援、医療安全管理への活用および反映 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項および第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容および従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、および許可件数（4件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項および高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 1. 高難度新規医療技術の提供に係る担当部門として医療安全管理部に設置
 2. 高難度新規医療技術の申請内容の確認
 3. 評価委員会の意見も踏まえ、申請内容の可否を決定
 4. 定期的に手術記録および診療録等の記載内容を確認
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（7件）、および許可件数（5件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項および未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：未承認新規医薬品等の使用の適否の審査等
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 558 件（外来 14 件・入院 544 件）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置または治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実および発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 270 件
 管理者が定める水準（国立大学附属病院医療安全管理協議会で定めた影響度分類3b 通常の経過では必要がない処置または治療が必要になったもの）の当該事象の発生の事実および発生前の

状況に関して医療安全管理部への報告実績。

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 医療安全推進室、医療安全管理部長、副院長、病院長で全死亡症例の死亡前から死亡に至る過程の診療記録等を回覧し、妥当性を検証
2. 疑義が生じた場合は、当該部署に対して医療安全管理部が確認、更なる確認が必要な場合等は緊急医療安全対策会議を開催して確認、妥当性を検証
3. 検証結果に基づき、必要な再発防止策の策定や指導を行う。
それらの結果を病院長に報告すると共に、医療安全推進委員会等で周知

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入りおよび技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：杏林大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：杏林大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

(指摘 1) 医療安全推進室で確認・精査されている死亡事例は、診療記録管理室が抽出した事例のみとのことでしたので、死亡および死産の確実な把握のため、全死亡例の死因や診療内容を医療安全推進室で確認・精査する体制の強化をご検討ください。

(実施 1) 全死亡件数の把握が不十分であったため毎月の死亡件数の把握に努め、全患者死亡数であったか確認する。死亡事例内容の報告については、以下の現状の方法を継続し精査する。

- ①診療記録管理室から送達された全死亡例の診療記録から医療安全推進室構成員で内容の確認・精査する。
- ②疑義のある事例について医療安全推進室長の最終判断を基に、関連部署へ報告依頼を行う。
- ③提出された報告書を基に緊急安全対策会議にて検討会を開催する。

(指摘 2) 医療機器の管理に関しては、不具合や健康被害が出現した場合に PMDA へ報告する体制をご検討ください。

(実施 2) 医療機器関連の不具合などが生じた時は、臨床工学技部で報告の必要性を判断した上で PMDA に報告する。また、PMDA に報告した内容について、医療安全推進室と連携し情報を共有する。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

当院では、医療福祉相談室内に「病院ご相談窓口」を設置している。対応職種は、医療ソーシャルワーカー9名（社会福祉士・精神保健福祉士）、病院長顧問2名である。受付時間は、病院の開院時間内としており、またプライバシーを保てるよう個室で対応している。面談のほか、電話での相談にも対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 総合医療安全対策講習会（全13回：本開催1回、録画開催11回）

医療安全対策、医療関連感染制御、医薬品の安全使用、医療機器の研修

2. 医療安全対策講習会（全12回：本開催1回、録画開催11回）

チーム医療とは何ですか。何ができるとよいですか。

－エビデンスに基づいたチーム医療のすゝめ：チームSTEPPS－

3. 医薬品の安全使用に関する講習会・医療機器の安全使用の医療安全対策講習会

（全12回：本開催1回、録画開催11回）

医薬品安全使用のための講習会、医療機器安全使用のための講習会

4. 新人研修（全10回）

新人看護師研修、新入職員教育研修会、臨床研修医教育研修会、臨床研修歯科医師教育研修会、臨床研修医教育研修会、専攻医オリエンテーション、看護補助者研修

5. BLS講習会（全2回）

6. 研修医・若手医師への研修会（全2回）

7. 医療安全に係る看護師研修（全2回）

8. 看護師による静脈留置針研修 講義と実技（全6回）

9. 血液浄化装置基礎講習会（全2回）

10. 人工呼吸器基礎講習会（全2回）

11. 危機回避講習会（人工呼吸器・AED）（全5回）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者および医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

[医療安全管理部長]

- ・国際医療リスクマネジメント学会「医療安全基礎講座（2018. 7. 2-4）」
 - ・国際医療リスクマネジメント学会「医療事故調査教育セミナー2018（2018. 8. 6-7）」
 - ・国際医療リスクマネジメント学会
「東京医療安全教育セミナー（実践編）2018（2018. 10. 26-28）」
 - ・医療の質・安全学会「第13回医療の質・安全学会学術集会（2018. 11. 24-25）」
 - ・日本医療機能評価機構「平成30年度特定機能病院管理者研修（2019. 2. 6）」
 - ・日本医療安全学会「第5回日本医療安全学会学術総会（2019. 2. 9-10）」
 - ・日本医療機能評価機構「平成30年度医療安全マスター養成プログラム（2019. 2. 16-17）」
- [専従看護師長]
- ・日本看護協会「医療安全管理者研修（2016. 9. 8-16）」
 - ・一般社団法人日本認知症ケア学会「第19回日本認知症ケア学術大会（2018. 6. 16-17）」
 - ・日本医療安全学会「看護安全技術研修会2018（2018. 8. 25）」
 - ・第一三共株式会社「岩手認知症センター 一般病棟における認知症高齢者への対応を考える（2018. 10. 23）」
 - ・厚生労働省東北厚生局「平成30年度医療安全ワークショップ（2018. 10. 31）」
 - ・医療の質・安全学会「第13回医療の質・安全学会学術集会（2018. 11. 24-25）」
 - ・日本医療安全学会「第5回日本医療安全学会学術総会（2019. 2. 9-10）」

[専従薬剤師]

- ・日本病院薬剤師会「平成30年度医薬品安全管理責任者等講習会（2018. 9. 22）」
- ・国際医療リスクマネジメント学会「医薬品安全管理研修会2018年（2018. 12. 1-2）」

[医薬品安全管理責任者]

- ・日本病院薬剤師会「平成30年度医薬品安全管理責任者等講習会（2018. 9. 22）」
- ・日本医療機能評価機構「平成30年度特定機能病院管理者研修（2019. 2. 6）」

[医療機器安全管理責任者]

- ・日本医療機能評価機構「平成30年度特定機能病院管理者研修（2019. 1. 21-22）」

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式 6-3)

規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none">・ 基準の主な内容<ul style="list-style-type: none">(1) 医師であること(2) 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること(3) 組織管理能力等の附属病院を運営する上で必要な資質及び能力を有すること・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 公表の方法 附属病院ホームページに掲載

規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none">・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 公表の方法 附属病院ホームページに掲載	
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由	

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
祖父江 憲治	岩手医科大学	○	学長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
佐藤 洋一	岩手医科大学		医学部長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
三浦 廣行	岩手医科大学		歯学部長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
小笠原 邦昭	岩手医科大学		附属病院長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
鈴木 健二	岩手医科大学		学長が指名する医師である副 院長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
肥田 圭介	岩手医科大学		医療安全管理を担当する副院 長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
宮田 剛	岩手県立中央病院 病院長		医学及び医療に関し識見を有 する学外者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
野原 勝	岩手県保健福祉部 技監兼副部長兼医 療政策室長		医学及び医療に関し識見を有 する学外者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 附属病院の管理運営に関する重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 議事の概要については、附属病院臨床部長会議にて通知を行う ・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・公表の方法 附属病院ホームページに掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・(無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
小笠原 邦昭	○	医師	病院長
鈴木 健二		医師	副院長
黒坂 大次郎		医師	副院長
土井田 稔		医師	副院長
肥田 圭介		医師	副院長
森野 禎浩		医師	副院長 (循環器医療センター長)
井上 義博		医師	副院長 (岩手県高度救命救急センター長)
佐藤 和朗		歯科医師	副院長 (歯科医療センター長)
工藤 賢三		薬剤師	薬剤部長
佐藤 悦子		看護師	看護部長
出口 育美		看護師	副看護部長
塚澤 仁敏		事務	病院事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
附属病院ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
附属病院長が有する附属病院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限については、次の各号のとおり定めるものとする。
 - (1) 人事執行権限について 岩手医科大学附属病院規程
 - (2) 予算執行権限について 学校法人岩手医科大学事務専決規程
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 附属病院に、副院長を置く。
 - ・ 副院長は、附属病院長を補佐し、附属病院長に事故あるときは、あらかじめ附属病院長が指名した者がその職務を代理する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「平成29年度特定機能病院管理者養成研修(2日間)」を受講(平成30年1月10日)

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 医療安全管理責任者、医療安全管理部、総合医療安全対策会議、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務状況について附属病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</p> <p>② 必要に応じて、理事長又は附属病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</p> <p>・ 公表の方法： 附属病院ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三木 保	東京医科大学 医学部 医療 の質・安全管理 分野 主任教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
渡辺 正和	渡辺正和法律 事務所 代表		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
古内 保之	元社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会 専務理事兼事務局長		医療を受ける者 その他医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

内部監査室において、定期監査及び臨時監査を実施している

・ 専門部署の設置の有無 (有 · 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 · 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 · 無)

・ 公表の方法

附属病院ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 附属病院長に対し、附属病院の管理及び運営に関する事項の概要を、理事会に報告することを義務付け、職務の執行を管理している。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 附属病院ホームページに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年 2 件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)
- ・ 周知の方法
内部通報窓口の存在及び窓口の使用方法是、総合医療安全対策会議議事録及び医療安全推進委員会資料の表紙に記載して周知している